（様式4）　　令和　5　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1271300525		
法人名	有限会社正心		
事業所名	グループホームせいしん		
所在地	千葉県野田市中根207		
自己評価作成日	令和6年1月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和6年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人がその人らしく生活できできますように

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム せいしん」は鉄筋3階建ての1～2階にあり、「人 そのために」と言う理念を掲げ、入居者一人ひとりの特性に合わせた個別の支援に努め、その人らしい生活が送れるよう取り組んでいる。職員からの要望により「lineworks」を導入し、業務全般に関わる情報共有やデータ管理に活用しており、業務の効率化に繋げている。医療支援として、職員による受診の付き添が行われており、医師との情報交換や緊急時の迅速な対応も行われており、医療機関と協力体制が整備されている。その他にも、日頃から、ケースワーカーや成年後見人等に加え、市や関係機関と連携を図っており、今年度は協力を得ながら、運営推進会議を開催している。会議では施設の取り組みを伝えると共に、様々な職種の人達と施設が抱える改善課題を話し合い、挙がった意見をサービスの質向上に活かしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人　そのために 気づく力と想像力で その人がその人らしく生活できるように。 ○本人や家族の話しに耳を傾けて聞き受け入れていく。	「人 そのために」と言う理念を掲げ、玄関に掲示しており、職員や外部の人達への周知を図っている。日頃から、入居者との関りを通して、サービス提供場面の振り返りや理念に基づくケアの確認を行う等、、理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域の祭りなどに進んで参加する。 ○事業所近くの床屋さんや近くのお店に買い物に行く。	日頃から　近隣の人達と挨拶を交わすと共に、自治会への加入や鹿嶋神社の夏祭りの参加を通して、地域の人達とふれあう機会を大切にしている。コロナが5類に移行し、感染対策の緩和はされているが、コロナ禍前の状態には戻っていないため、地域との交流機会は限られている。但し、近隣商店やコンビニエンスストアへの買い物に加え、理美容を利用する等、入居者が地域と繋がり続けられるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○認知症や、介護に関する相談		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年10月より、再開。	日頃から、ケースワーカーや成年後見人等と意見交換を行う等、関係機関と連携を図っている。今期は、市や関係者からの後押しがあり、運営推進会議を2回開催している。会議では施設の取り組みを伝えると共に、様々な職種の人達と施設が抱える改善課題を話し合い、挙がった意見を施設運営に活かしている。	コロナ5類になったとはいえ、施設が抱える状況もあり、定期的な開催が難しい中で、2回開催することができた。今後、運営推進会議の機会を徐々に増やして頂き、施設の取組が地域から理解と支援を得られるよう、取り組んで頂くことに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことや分からないことなどがある時や事故等があった時、市の人達の協力を得ている。	必要に応じて、市役所に対し、報告・相談等を随時行うと共に、定期的に市職員の来訪もあり、市とは連携を図っている。また、市の介護相談員を受け入れており、外部からの意見や情報を参考に施設サービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとに、身体的拘束等適正化検討委員会を開催し、職員の研修等を行っている。 ○非常口や階段で落下の恐れのある入り口は施錠している。 ○玄関は夜間は閉めている。	身体拘束適正化のための指針を明文化しており、定期的に適正化委員会を開催している。身体拘束関係の資料は施設内に掲示しており、施設の姿勢を明確にしている。また、研修や会議等をlineworksを通して実施・共有しており、　全職員への意識浸透を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どんなに小さい傷やアザがあっても、確認した人はすぐ報告し、皆で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○過去の該当者の実例を基に、具体的な学びを行っている。生保受給の方は市の担当ワーカーさんと協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合い、納得してもらい、署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人・家族・相談員等、外部の人からの話しは、どんなに小さいことでも、朝礼時や貼り紙、ケア記録アプリ、LineWorks等にて、職員全員が共有して、意見交換を行っている。	家族の面会時や電話連絡・運営推進会議を通して、意見や要望を確認している。挙がった意見・要望においては、会議や申し送りと共に、lineworksを活用して検討が行われ、速やかで適切な対応に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	LineWorks等を活用し、個別対応を行っている。	日常の支援においては、入居者個別にケア記録アプリを活用しながら記録しており、日常業務の軽減を図っている。また、lineworks等を活用し、職員の法定研修への参加啓発や会議の開催機会を確保すると共に、職員同士が日常の支援に必要な情報が共有が出来るよう、職場環境の整備に取り組んでいる。、導入については、日常的な関りの中で職員から挙がった要望である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	LineWorks等を活用し、個別対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に勉強し、資格取得も含め、施設内での研修をしている。外部研修のパンフレット等は、随時、LineWorksに最新のものを載せてあり、希望者には、援助する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の交流会や研修会に参加しているが、まだ十分ではない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、本人に関する情報を職員全員が共有し、どう接するか話し合い、導入後しばらくの間は、昼夜共にご本人の状況を、通常よりも細かく、皆で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、家族との相談や話しには、直接また電話でも受け付けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困って、何をして欲しいのかを聞取り、どうすることがいいのかを話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは皆さんで手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんなことでも変化を伝えて話し合い、協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症等に留意はするが、外出・面会も自由になっている。	家族との面会や外出が可能となっており、家族関係継続を支援している。また、地域での散歩やドライブ等を通して、馴染みの場所とのつながりも大切にしている。その他にも、月に2回の訪問美容の活用やコンビニエンスストアでの買い物等、入居者一人ひとりの要望や生活習慣を尊重しながら、継続的な交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で手伝いをしてもらったり、食事やお茶も全員で楽しんでいただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となっても相談に乗ったり、落ち着くまでは入院中の洗濯物等も行っている。２～３年経って、家族が来てくれることもある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	指示をするのではなく、他の人に迷惑をかけない限りは、本人の希望を聞けるようにしている。	入所前に本人や家族から、意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医療機関や他事業所からの情報収集も行っている。入居後は、家族からの情報提供や日々の生活観察及び会話等から意向や思いを汲み取っている。会議やlineworksにて職員間で記録や情報を共有し、入居者の意向に沿ったサービスの提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り、部屋の家具等の配置や服装などは、本人の希望を優先している。又入居時のアセスメントにある生活歴等は、いつでも職員は確認できる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	手伝いやレク等は、個別処遇で行っている。その日の心身の状態により、声かけを行い、強制はしない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人の変化を、夜勤・日勤が記録し、その変化を全職員が確認している。	本人や家族の意向を基に、職員間で検討を行い、介護計画を作成をしている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて、計画内容の見直しを行っている。常時入居者一人ひとりの生活状況をケア記録アプリを活用しながら、詳細な記録や情報共有に努め、統一したケアの実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録（夜昼）		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調面・精神面等で変化があれば、家族・本人・担当医・介護員が記録を持ち寄り、その場で対応する。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人がのんびりとゆったりと日々の生活ができるようにと取り組んでいるが、まだまだだと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り、入居前からのかかりつけ医に受診している。	希望するかかりつけ医の受診及び、内科医・歯科医の往診が可能となっている。また、必要に応じて入居者個別に職員が通院同行しており、適切な受診を支援している。協力医療機関とは24時間の協力体制が確保されており、状態変化や緊急時の迅速かつ適切な医療支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいない。 往診ドクター　月2回　随時。 緊急時は、小張総合病院、キッコーマン総合病院、野田中央病院が受け入れてくれる。 看取り時は、個別の体制となる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、洗濯物を洗って届けながら、2～3日に一度は面会し、担当医や看護師より説明を受けている。 コロナ禍では、こうしたことは、出来なかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、家族・担当ドクター・ホームで話し合って、介護計画書に明記している。	契約書に看取りにおける指針を明記しており、説明の上、同意を得ている。必要時には、医療関係者との相談や医療支援及び入院の受け入れ等が行われており、医療機関との協力体制が整備されている。施設として、看取り支援の経験を活かし、入居者・家族の意向に添った柔軟な支援を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で行っている。 可能性の高い場合は、どういう症状が出るか、又どう対応するか、引き継ぎにて、全職員に知らせている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署のご指摘を受けながら、避難訓練等は行っている。 BCP策定。	スプリンクラー・自動通報器・火災報知器等の消防設備や複数の非常階段を設置していると共に、マニュアルの整備や災害時のシュミレーションを行う等、災害対策を講じている。消防避難訓練は年2回行っており、自然災害想定訓練・消火器訓練・通報訓練等を実施しており、非常災害時に備えている。他もに、AEDを導入しており、急変や事故発生時に備えている。他にも、業務継続計画を策定しており、自然災害や感染症発生時の入居者や職員の安全確保と共に、業務の維持や復旧を視野に入れ、体制を整えている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的に実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーと尊厳を大切にしている。また、入職時に誓約書を交わし、個人情報保護の徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援に配慮し、その人らしい生活の実現に向け取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に沿った支援をしていこうと取り組んでいるが、まだまだである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目標として取り組んでいるが、介護者により、まだまだ介護者の都合に合わせてしまっていることもあり、今後の課題だと思っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の好きな物を着ていただいている。清潔な物を着ていただけるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等は、一部手伝っていただいている。以前は皆さんできざんだりしてもらっていたが、だんだんと手足がきかなくなり、難しくなっている。	食事の献立や食材の配送を業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、入居者一人ひとりの身体状況等に配慮し、調理方法・食事時間・介助方法に工夫を凝らす等、食事が楽しみとなるよう支援している。その他、クリスマス・正月等の行事に応じたメニューや献立外の食事の提供を行っており、入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人が食べやすいように、嫌いな物がある場合は、サプリメントで補う等のことを、担当医と相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。 （声かけで自分で行う人、口をブクブクだけする人、入れ歯を外して洗い口の中をブクブクしていただく人に別れている）		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツにはせず、リハパンなどを使用しながら、トイレ・ポータブル介助、声かけ誘導を行っている。	排泄状況等はケア記録アプリを活用しており、全職員が支援内容を共有している。入居者一人ひとりの排泄パターンの記録を基に、トイレ誘導や声がけを行う等、排泄の自立に向け支援している。また、日頃から食事・水分・運動を工夫すると共に、必要に応じて、医師に相談し、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士の献立を提供したり、リハビリ体操や手伝いで体を動かしていただく。又、担当医と相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医師の指示がある場合等は、入浴回数の変更があるが、一人一人の希望は聞いて行ってはいない。	入浴は週2回に実施しており、必要に応じて、シャワー浴・清拭を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。ケア記録アプリを活用して記録されており、医師からの指示や入浴回数の変更等を全職員が共有している。他にも、沐浴剤を活用しており、入居者の心地よい入浴支援に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後30～40分は自室でのんびりしていただいたり、本人が横になりたいときはレクに参加せず本人の好きな様にしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	LineWorksに、随時、掲載。 各自個人ファイルの中に入れてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などには行っているが、いつでもできるというまでにはなっていない。	外出については、全入居者個別で対応しており、天候や入居者の意向に配慮して、散歩や買物等を行っている。また、受診時の外出機会を活用して、ドライブや花見等、季節に応じた楽しみを提供している。コロナが5類に移行し、感染対策の緩和はされているが、コロナ禍前の状態には戻っていないため、外出は控えているが、コンビニエンスストアへの買い物や理美容の利用は行っており、入居者から好評を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができる場合は、買い物に行って自分で支払をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話対応できる場合は、夜間（緊急時を除く）以外は取り次いでいる。かけて欲しいと言うときには、相手に確認の上、代わってかけている。面会がない人には、手紙や本人の写真を送ったりして、連絡を待ったこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家庭の雰囲気がでるようにと行っているが、まだまだである。	施設は1階と2階のフロアに分かれており、1階は多目的ホールとなっており、2階部分が入居者の生活の場として利用している。共有スペースには椅子やテーブルを設置しており、自由にくつろげるよう配慮している。共有部分については入居者のその日の心身の状況に応じて、食事時間の変更や椅子等の配置を変えることがあり、一人ひとりのペースに合わせた生活を支援している。エレベーターが設置されており、身体状況に応じた環境整備がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でテレビやタブレットを見たり本や新聞を読んだりお茶やコーヒーを飲んでいる人もいるが、全ての人ではない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族が、好きな様に配置してくれている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を自由に持ち込むことが可能となっている。また、居室ごとに間取り等に違いがあり、入居者の好みや使い勝手に配慮された住居空間となっている。希望に応じて、テレビ・ポターブルトイレ等を設置する等、生活歴・身体状況に応じた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人にできる手伝いをしていただいている。		